

東京大学(駒場Ⅰ)駒場コミュニケーション・プラザ
施設整備等事業

入札説明書

平成16年9月8日

国立大学法人東京大学

< 目 次 >

I. 対象事業の概要等	2
1 公告日	2
2 契約担当者	2
3 調達機関番号等	2
4 品目分類番号	2
5 担当部局	2
6 事業概要等	2
7 スケジュール	6
8 競争参加資格等	7
9 競争参加資格等の確認等	11
10 競争参加資格がないと認めた者に対する理由の説明	12
11 現地説明会	13
12 入札説明書等に関する質問及び回答	13
13 入札書及び入札提案書類の提出期間・場所及び方法等	14
14 入札保証金及び契約保証金	16
15 開札	16
16 入札の無効	17
17 落札者の決定方法等	17
18 手続きにおける交渉の有無	19
19 基本協定書の締結	19
20 特別目的会社の設立	19
21 事業契約書の締結	19
22 支払条件等	20
23 保険	20
24 随意契約により締結する予定の有無	21
25 苦情申立て	21
26 関連情報を入手するための照会窓口	21
27 その他	22
II. 事業実施に関する事項	23
1 選定事業者の権利義務等に関する制限	23
2 本学と選定事業者の責任分担	23
3 法制上及び税制上の措置並びに財政上及び金融上の支援に関する事項	23
4 事業実施に関する事項	24
5 財政上及び金融上の支援に関する事項	26
6 その他	26
III. 提出書類一覧	28

本入札説明書は、国立大学法人東京大学（以下「本学」という。）が「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」（平成11年法律第117号改正平成13年法律第151号、以下「PFI法」という。）に基づき特定事業として選定した「東京大学(駒場Ⅰ)駒場コミュニケーション・プラザ施設整備等事業」（以下「本事業」という。）を実施するにあたり、入札参加者を対象に交付するものである。

本事業の基本的な考え方については、平成16年5月28日に公表した実施方針と同様であるが、本事業の条件等について、実施方針に関する質問回答及び意見等を反映しているので、入札参加者は本入札説明書の内容を踏まえ、入札に必要な書類を提出すること。

また、以下の書類は、本入札説明書と一体のもの（以下「入札説明書等」という。）とする。

- 1 「東京大学(駒場Ⅰ)駒場コミュニケーション・プラザ施設整備等事業 入札金額等の算出方法及びサービス購入費の支払方法等」
- 2 「東京大学(駒場Ⅰ)駒場コミュニケーション・プラザ施設整備等事業 様式集」（以下「様式集」という。）
- 3 「東京大学(駒場Ⅰ)駒場コミュニケーション・プラザ施設整備等事業 要求水準書」（以下「要求水準書」という。）
- 4 「東京大学(駒場Ⅰ)駒場コミュニケーション・プラザ施設整備等事業 要求水準書 別表・資料」（以下「要求水準書 別表・資料」という。）
- 5 「東京大学(駒場Ⅰ)駒場コミュニケーション・プラザ施設整備等事業 落札者決定基準」（以下「落札者決定基準」という。）
- 6 「東京大学(駒場Ⅰ)駒場コミュニケーション・プラザ施設整備等事業 基本協定書（案）」（以下「基本協定書（案）」という。）
- 7 「東京大学(駒場Ⅰ)駒場コミュニケーション・プラザ施設整備等事業 事業契約書（案）」（以下「事業契約書（案）」という。）
- 8 「東京大学(駒場Ⅰ)駒場コミュニケーション・プラザ施設整備等事業 閲覧資料」（以下「閲覧資料」という。）

なお、本入札説明書（入札説明書等）と実施方針及び実施方針に関する質問回答に相違がある場合は、本入札説明書（入札説明書等）の規定が優先するものとする。また、本入札説明書（入札説明書等）に記載がない事項については、実施方針及び実施方針に関する質問回答及び本入札説明書（入札説明書等）に関する質問回答によることとする。

I. 対象事業の概要等

1 公告日

平成16年9月8日

2 契約担当者

国立大学法人東京大学 総長 佐々木 毅

代理人 国立大学法人東京大学 施設部長 山田 泰二

3 調達機関番号等

◎ 調達機関番号 415

◎ 所在地番号 13

◎ 第1号

4 品目分類番号

41、42、75、78

5 担当部局

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号

国立大学法人東京大学施設部施設企画課

6 事業概要等

(1) 事業名

東京大学(駒場I)駒場コミュニケーション・プラザ施設整備等事業

(2) 事業場所

東京都目黒区駒場3丁目8番1号 東京大学駒場Iキャンパス構内

(3) 事業期間

事業契約締結の日の翌日から平成31年3月31日まで

(4) 事業概要

本事業のうち北館（I期工事）は、PFI法に基づき実施するものとし、選定事業者（入札説明書の定めるところにより、本事業を実施する者として選定されたPFI法第2条第5項に規定する選定事業者をいう。以下同じ。）が東京大学(駒場I)駒場コミュニケーション・プラザ施設（以下「本施設」という。）の北館の設計、建設及び工事監理を行った後も施設（北館）を自ら所有し、施設供用開始の日から事業期間中に係る維持管理業務及び運営業務を遂行、事業期間終了時に本学に施設（北館）の所有権を無償で移転するBOT（Build Operate Transfer）方式により実施する。

本事業のうち南館及び和館（Ⅱ期工事・中庭等の外構工事を含む）は、P F I法に基づき実施するものとし、選定事業者が本施設の南館及び和館の設計、建設及び工事監理を行った後、本学に施設（南館及び和館）の所有権を移転し、施設供用開始の日から事業期間中に係る維持管理業務及び運營業務を遂行するB T O（Build Transfer Operate）方式により実施する。

本事業は、本施設の設計、建設及び工事監理並びに維持管理業務、学校事務業務及び教育研究の補助業務に係る対価として本学が選定事業者に費用を支払うものである。

1) 敷地の概要

敷地の概要は以下のとおり。

建設地	東京都目黒区駒場3丁目8番1号 東京大学駒場Iキャンパス構内	
敷地面積	駒場Iキャンパス全体 約255,000㎡	
本事業計画地面積	駒場Iキャンパス内 約12,800㎡	
敷地前面道路	西側道路	幅員 7m
	北側道路	幅員 18m
用途地域	第一種中高層住居専用地域	
高度地区	第二種高度地区	
防火・準防火	準防火地域	
日影規制	3時間・2時間	
建ぺい率/容積率	60% / 200%	

2) 事業の範囲

選定事業者が実施する本事業の主な範囲は以下のとおりである。なお、各業務における具体的内容については事業契約書（案）及び要求水準書に示す。

ア 施設整備業務

- ① 事前調査業務（地質調査、土壌汚染調査、埋蔵文化財発掘調査を含む）及びその関連業務
- ② 施設整備に係る設計（基本設計・実施設計）及びその関連業務
- ③ 施設整備に係る敷地造成等（一部撤去工事を含む）、建設工事及びその関連業務
- ④ 工事監理業務
- ⑤ 周辺家屋影響調査・対策
- ⑥ 電波障害調査・対策
- ⑦ 建設工事及びその関連業務に伴う各種申請等の業務

イ 維持管理業務

- ① 建物保守管理業務（点検・保守・修繕・更新その他の一切の保守管理業務を含む）
- ② 建築設備保守管理業務（設備運転・監視・点検・保守・修繕・更新その他の一切の保守管理業務を含む）
- ③ 外構施設保守管理業務（点検・保守・修繕・更新その他の一切の保守管理業務を含む）
- ④ 清掃業務（建築物内部及び外部・事業計画地内の清掃業務）
- ⑤ 保安警備業務
- ⑥ 植栽維持管理業務

※ 本施設の大規模修繕（本事業における大規模修繕とは、本学が自らの事由により別途発注する、施設の利用を制限して行う大規模な修繕をいう。）については、事業期間中の実施は予定していない。ただし、入札説明書等（主に要求水準書）に示す機能を維持するために行う修繕・更新は、その規模にかかわらず全て本事業の範囲とし、選定事業者が実施するものとする。

ウ 運営業務

- ① 北館（教育研究施設部分）の学校事務業務及び教育研究の補助業務
- ② 北館（福利厚生施設部分）の購買業務（物品の販売・サービスの提供等）
- ③ 北館（福利厚生施設部分）の書籍業務（書籍・教科書等の販売等）
- ④ 南館（食堂A・B・C及び食堂D部分）の食堂運営業務

7 スケジュール

以下のスケジュールで本事業を行う。

平成 16 年 09 月 08 日	(1) 入札公告
平成 16 年 09 月 14 日	(2) 現地説明会
平成 16 年 09 月 15 日~09 月 16 日	(3) 入札説明書等に関する第 1 回質問受付期間
平成 16 年 10 月 07 日	(4) 入札説明書等に関する第 1 回質問の回答
平成 16 年 10 月 12 日~10 月 15 日	(5) 競争参加資格確認申請書等の受付期間
平成 16 年 10 月 22 日	(6) 競争参加資格の確認結果の通知・公表
平成 16 年 11 月 02 日	(7) 競争参加資格がないと認めた理由説明請求の受付期限
平成 16 年 11 月 10 日	(8) 競争参加資格がないと認めた理由の回答
平成 16 年 10 月 25 日~10 月 26 日	(9) 入札説明書等に関する第 2 回質問受付期間
平成 16 年 11 月 16 日	(10) 入札説明書等に関する第 2 回質問の回答
平成 16 年 12 月 21 日~12 月 22 日	(11) 入札書及び入札提案書類の受付期間
平成 16 年 12 月 22 日	(12) 開札
平成 17 年 01 月 中旬	(13) 入札提案書類等に関するヒアリング
平成 17 年 02 月 上旬	(14) 落札者の決定・公表
平成 17 年 02 月 中旬	(15) 選定事業者との基本協定書の締結
平成 17 年 03 月 上旬	(16) 選定事業者との事業契約書の締結
平成 17 年 03 月~平成 18 年 03 月末	(17) I 期工事・設計及び建設期間
平成 18 年 04 月 01 日	(18) I 期工事・供用開始
平成 18 年 04 月~平成 31 年 03 月末	(19) I 期工事・維持管理及び運営期間
平成 17 年 03 月~平成 18 年 09 月末	(20) II 期工事・設計及び建設期間
平成 18 年 10 月 01 日	(21) II 期工事・供用開始
平成 18 年 10 月~平成 31 年 03 月末	(22) II 期工事・維持管理及び運営期間

8 競争参加資格等

(1) 入札参加者が備えるべき要件等

1) 入札参加者の構成等

- ア 入札参加者は、単独企業（以下「入札参加企業」という。）、又は複数の者で構成されるグループ（以下「入札参加グループ」という。）であること。
- イ 入札参加者は、入札参加企業又は入札参加グループの構成員が本事業の遂行上果たす役割を明らかにするとともに、入札参加グループで申し込む場合には、競争参加資格確認申請書及び競争参加資格確認資料（以下「競争参加資格確認申請書等」という。）の提出時に代表企業名を明記し、必ず代表企業が入札手続を行うとともに、本学との対応窓口となること。
- ウ 入札参加者は、入札参加企業又は入札参加グループの構成員以外の者で、事業開始後、選定事業者から直接業務を受託し、又は請け負うことを予定している者（以下「協力会社」という。）についても、競争参加資格確認申請書等の提出時において協力会社として明記すること。
- エ 入札参加者及び協力会社には、設計に当たる者、建設に当たる者、工事監理に当たる者、維持管理に当たる者、学校事務業務に当たる者、教育研究の補助業務に当たる者が必ず含まれていること。協力会社には、購買業務に当たる者、書籍業務に当たる者、食堂運営業務に当たる者が必ず含まれていること。

2) 入札参加者及び協力会社の参加要件

入札参加者及び協力会社のいずれも、以下の要件を満たすこと。

- ア 東京大学契約事務取扱規程（平成16年4月1日）第2条及び第3条の規定に該当しない者であり、かつ同規程第4条に規定する資格を有する者であること。ただし、設計及び工事監理に当たる者については、(1)3)ア①及びウ①に示す「平成15・16年度設計・コンサルティング業務」の有資格業者に登録されている者であること。
- イ 会社更生法（昭和27年法律第172号）に基づき更生手続き開始の申立をした者又は民事再生法（平成11年法律第225号）に基づき再生手続き開始の申立をした者にあつては、手続き開始の決定を受けた後に審査を受けた一般競争参加資格者の資格を有する者であること。
- ウ 競争参加資格確認申請等の提出期限から落札者の選定が終了するまでの期間に、文部科学省又は本学から「建設工事の請負契約に係る指名停止等の措置要領について」（平成6年5月17日付け文施指第83号文教施設部長通知）に基づく指名停止措置、又は「契約事務の適正な執行について」（平成13年1月6日付け12文科会第108号会計課長通知）別添四記第7物品購入等契約に係る取引停止等の取扱要領に基づく取引停止措置を受けている期間中でないこと。
- エ 本学が本事業について、アドバイザー業務を委託した(株)佐藤総合計画並びに(株)佐藤総合計画が本アドバイザー業務において提携関係にある三井安田法律事務所及びみずほ総合研究所(株)又はこれらの者と資本面若しくは人事面

において関連がある者でないこと。

なお、「資本面において関連がある者」とは、当該企業の発行済株式総数の100分の50を超える株式を有し、又はその出資の総額の100分の50を超える出資をしている者をいい、「人事面において関連がある者」とは、当該企業の代表権を有する役員を兼ねている者をいう。

オ 「東京大学PFI事業推進委員会」の委員から構成される「東京大学(駒場I)駒場コミュニケーション・プラザ施設整備等事業に係る審査会」(以下「審査会」という。)の委員が属する企業又はその企業と資本面若しくは人事面において関連がある者でないこと。

カ 最近1年間の国税(法人税等)を滞納していない者。

キ 入札参加者及び協力会社のいずれかが、他の入札参加者又は協力会社として参加していないこと。

ただし、購買業務、書籍業務、食堂運営業務に限り、他の入札参加者の当該業務に重複して参加できる。

3) 入札参加者及び協力会社の資格等要件

入札参加者及び協力会社のうち設計、建設、工事監理及び維持管理の各業務に当たる者は、それぞれ以下の要件を満たすこと。

なお、複数の要件を満たす者は当該複数の業務を実施することができることとし、また、同一業務を複数の者で実施する場合もその全ての要件を全て満たすこと。

ただし、建設業務と工事監理業務については、兼務することはできない。また、資本面若しくは人事面において関連がある場合も同様とする。

ア 設計に当たる者は、以下の要件を満たすこと。

① 文部科学省又は本学において平成15・16年度設計・コンサルティング業務に係る有資格業者として登録されている者であること。

② 経営状況が健全であること。

なお、「健全であること」とは、手形交換所による取引停止処分及び主要取引先から取引停止を受けていない者並びに経営状態が著しく不健全でない者を指す。

③ 不正又は不誠実な行為がないこと。

④ 建築士法(昭和25年度法律第202号)第23条の規定に基づく一級建築士事務所の登録をしていること。

⑤ 平成6年度以降に担当者(相当程度の責任をもって業務に従事した者)として、下記に示す業務に従事し、完了した経験を有する総括技術者及び主任技術者(建築工事・電気設備工事・機械設備工事)を専任で配置できること。なお、同じ技術者が複数の役割及び分野を担当することを妨げるものではない。

1000㎡以上の食堂(厨房・客席等の合計)を含む5000㎡以上の複合施設の設計業務

イ 建設に当たる者は、以下の要件を満たすこと。

- ① 文部科学省又は本学において一般競争参加者の資格を有し、各工事において、「一般競争参加者の資格」（平成13年1月6日文部科学大臣決定）第1章第4条で定めるところにより算定した点数（一般競争（指名競争）参加資格認定通知書の記2の点数）が以下の点数以上であること。

建築一式工事	1250点
電気工事	950点
管工事	950点

なお、複数の工事を同一の企業が実施することは、差し支えない。

また、各工事を複数の企業が共同して実施することは差し支えない。ただしこの場合においては、共同して工事を実施する全ての入札参加者及び協力会社が上記を満たすものとする。

- ② 提案内容に対応する建設業法（昭和24年法律第100号）の許可業種につき許可を有しての営業年数が5年以上ある者であること。ただし、相当の施工実績を有し、確実かつ円滑な共同施工が確保できると認められる場合においては、許可を有しての営業年数が5年未満であっても同等として取り扱うことができるものとする。

- ③ 平成6年度以降に、元請として完成・引渡し完了した下記の基準を満たす各工事に対応した新営工事を施工した実績を有すること。（共同企業体の構成員としての実績は、出資比率が20%以上の場合のものに限る。）

なお、複数の建設企業が下記に示す建設工事ごとに共同して施工する場合にあっては、全ての企業が工事種類ごとの下記の施工実績を有すること。

1000㎡以上の食堂（厨房・客席等の合計）を含む5000㎡以上の複合施設の施工

- ④ 以下に掲げる基準を満たす主任技術者又は監理技術者を当該工事に専任で配置できること。

a. 建築工事

一級建築施工管理技士又はこれと同等以上の資格を有する者であること。なお、「これと同等以上の資格を有する者」とは、一級建築士又はこれらと同等以上の資格を有する者として国土交通大臣が認定した者であること。

b. 電気設備工事

一級電気工事施工管理技士又はこれと同等以上の資格を有する者であること。なお、「これと同等以上の資格を有する者」とは、技術士（技術士法による第二次試験のうち、技術部門を電気・電子部門、建設部門又は総合技術監理部門（選択科目を「電気・電子」又は「建設」とするものに限る。）とするものに合格した者）の資格を有する者又はこれらと同等以上の資格を有する者として国土交通大臣が認定した者であること。

c. 機械設備工事

一級管工事施工管理技士又はこれと同等以上の資格を有する者であること。

と。なお、「これと同等以上の資格を有する者」とは、技術士（技術士法による第二次試験のうち、技術部門を機械部門（選択科目を「流体機械」又は「冷暖房及び冷凍機械」とするものに限る。）、水道部門、衛生工学部門又は総合技術監理部門（選択科目を「機械－流体機械」、「機械－冷暖房及び冷凍機械」、「水道」又は「衛生工学」とするものに限る。）とするものに合格した者）の資格を有する者又はこれらと同等以上の資格を有する者として国土交通大臣が認定した者であること。

d. 平成6年度以降に、元請として完成・引渡し完了した上記3)イ③に掲げる工事の経験を有する者であること。

e. 監理技術者にあつては、監理技術者資格者証及び監理技術者講習修了証を有する者又はこれに準ずる者であること。なお、「これに準ずる者」とは、以下の者をいう。

- ・ 平成16年2月29日以前に交付を受けた監理技術者資格者証を有する者
- ・ 平成16年2月29日以前に監理技術者講習を受けた者であつて、平成16年3月1日以後に監理技術者資格者証の交付を受けた者である場合には、監理技術者資格者証及び指定講習受講修了証を有する者

ウ 工事監理に当たる者（建築基準法（昭和25年法律第201号）第5条の4第2項の規定に基づき設置するものとする。）は、以下の要件を満たすこと。

- ① 上記3)ア①に同じ。
- ② 上記3)ア②に同じ。
- ③ 上記3)ア③に同じ。
- ④ 上記3)ア④に同じ。
- ⑤ 平成6年度以降に担当者（相当程度の責任をもって業務に従事した者）として、下記に示す業務に従事し、完了した経験を有する者を建築工事・電気設備工事・機械設備工事にそれぞれ専任で配置できること。

1000㎡以上の食堂（厨房・客席等の合計）を含む5000㎡以上の複合施設の工事監理業務

エ 維持管理に当たる者は、以下の要件を満たすこと。

- ① 文部科学省競争参加資格（全省庁統一資格）又は本学において平成16年度に関東・甲信越地域の「役務の提供等」のA、B又はCの等級に格付けされている者であること。
- ② 請負を実施するに必要とする資格を有していることを証明した者であること。
- ③ 平成6年度以降に、下記の基準を満たす維持管理業務を元請けとして実施した実績を有すること。（共同企業体の構成員としての実績は、出資比率が20%以上の場合のものに限る。）

食堂を含む5000㎡以上の複合施設の維持管理業務

(2) 入札参加者の構成員の変更等

競争参加資格確認申請書等により参加の意思を表明した入札参加グループの構成員及び協力会社の変更及び追加は原則として認めない。ただし、やむを得ない事情が生じた場合（指名停止等に該当する場合を除く。）は、本学と協議を行うこととする。協議の結果、本学が妥当と認めた場合には、入札参加者の代表企業以外の構成員及び協力会社を、競争参加資格の確認を受けた上で入札提案書類の提出期限までに変更及び追加することができるものとする。

9 競争参加資格等の確認等

- (1) 入札参加希望者は、上記8(1)3)に掲げる要件（以下「競争参加資格」という。）を満たすことを証明するため、以下に従い、競争参加資格確認申請書等を提出し、本学の契約担当者から競争参加資格の有無について確認を受けなければならない。8(1)3)のア①・イ①・ウ①及びエ①に掲げる「一般競争参加資格」を有していない者も開札の時に於いて8(1)3)のア①・イ①・ウ①及びエ①に掲げる事項を満たしていることを条件として競争参加資格があることを確認するものとする。当該確認を受けた者が競争に参加するためには、開札の時に於いて8(1)3)のア①・イ①・ウ①及びエ①に掲げる事項を満たしていなければならない。

なお、期限までに競争参加資格確認申請書等を提出しない者並びに競争参加資格が無いと認められた者は、本競争に参加することができない。

1) 提出期間

平成16年10月12日（火）午前10時00分から平成16年10月15日（金）午後5時00分まで

2) 提出場所

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学施設部施設企画課契約係
電話：03-5841-2209

3) その他

競争参加資格確認申請書等の提出は、提出場所へ持参することとし、郵送又は電送によるものは受け付けない。

- (2) 競争参加資格確認申請書等の提出書類は、「様式集」〈様式4～11〉「競争参加資格確認申請に関する提出書類」により作成すること。
- (3) 8(1)3)イ③の同種の工事の施工実績及び8(1)3)ア⑤・イ④d・ウ⑤の配置予定の技術者等の同種の工事等の経験の確認を行うに当たっては、効力を有する政府調達に関する協定を適用している国及び地域並びに我が国に対して建設市場が開放的であると認められる国及び地域以外の国又は地域に主たる営業所を有する建設業者にあつては、我が国における同種の工事等の施工実績及び経験をもって行うものとする。

(4) 競争参加資格の確認後の取扱い

競争参加資格を有するとの確認を受けた入札参加者又は協力会社のいずれかが、

開札日において、8 (1)2)及び3)に定める要件の一つでも満たさない場合（以下「指名停止等に該当する場合」という。）には、競争参加資格がない者に該当するので、当該入札参加者の入札の参加は認められない。

(5) 競争参加資格の確認結果の通知

競争参加資格の確認結果の通知は、競争参加資格確認申請を行った者に対して、書面により平成16年10月22日（金）までに発送する。入札参加グループの場合は、代表企業に発送する。

(6) 費用負担

入札に関し必要な費用は、全て入札参加者の負担とする。

(7) 競争参加資格確認申請書等の取扱い

1) 本学は、提出された競争参加資格確認申請書等を競争参加資格の審査以外に入札参加者に無断で使用しない。

2) 提出された競争参加資格確認申請書等は返却しない。

3) 競争参加資格確認申請書等の変更等の禁止

提出された競争参加資格確認申請等の変更、差し替え若しくは再提出は原則として認めない。

なお、例外的に、本学が提出された競争参加資格確認申請書等の差し替え若しくは再提出を指示した場合であっても、競争参加資格確認申請書等の提出期限以降の差し替え若しくは再提出は認めない。

(8) 本学からの提示資料の取扱い

本学が提供する資料は、入札に係る検討以外の目的で使用することはできない。

(9) 入札参加者の複数提案の禁止

入札参加者は、1つの提案しか行うことはできない。

10 競争参加資格がないと認められた者に対する理由の説明

(1) 競争参加資格の確認の結果、競争参加資格がないと認められた者は、本学に対して競争参加資格がないと認められた理由について、以下に従い書面（様式は自由）により説明を求めることができる。

1) 提出期限

平成16年11月2日（火）午後5時00分まで

2) 提出場所

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学施設部施設企画課契約係

電話：03-5841-2209

3) その他

書面は持参することにより提出するものとし、郵送又は電送によるものは受け付けない。

(2) 本学は、説明を求められたときは、平成16年11月10日（水）までに説明を求めた者に対し書面により回答する。

11 現地説明会

下記のとおり、希望者を対象に入札に関する説明会並びに本施設の事業計画地の状況等を確認するための見学会を開催する。現地説明会に関する情報等は、文部科学省及び本学のホームページ等に掲載するので、適宜確認すること。

なお、現地説明会に参加を希望する者は、「様式集」＜様式1＞「現地説明会参加申込書」に必要事項を記入して平成16年9月13日（月）午後5時00分までに、下記(3)までFAXにて提出すること。ただし、やむを得ず申込書を提出できなかった場合でも、当日、現地での参加を認める。また、申込んだ者が参加できない場合は、代理の者の参加も認める。参加者数は特に制限を設けないが、駐車場がないので公共交通機関を利用すること。

また、入札説明書等の書類等は、文部科学省及び本学のホームページ等よりダウンロードして持参すること。

(1) 開催日時

平成16年9月14日（火）午後2時00分から

(2) 開催場所

東京都目黒区駒場3-8-1（駒場Iキャンパス構内）
講堂900番教室

(3) 当日連絡先

東京大学施設部施設企画課企画調整係
電 話：03-5841-2205
FAX：03-5841-2228

12 入札説明書等に関する質問及び回答

入札説明書等の内容に関し質問事項がある場合においては、以下の要領にて提出すること。

【第1回目】

(1) 提出期間

平成16年9月15日（水）～平成16年9月16日（木）

(2) 宛先／方法

質問の宛先、提出方法及び様式等については「様式集」＜様式2＞「入札説明書等に関する質問書提出届」＜様式3＞「入札説明書等に関する質問書」を参照すること。なお、使用するソフトウェアはMicrosoft Wordとし、入札説明書、入札金額等の算出方法及びサービス購入費の支払方法等、様式集、要求水準書、要求水準書別表・資料、落札者決定基準、事業契約書（案）・基本協定書（案）ごとにファイル名をつけ、電子メールにて提出すること。電子メールのアドレスは [pfi-komipura@adm.u-tokyo.ac.jp] である。

(3) 回答の公表

質問に対する回答は、質問者の特殊な技術、ノウハウ等に係り、質問者の権利、

競争上の地位その他正当な利益を害するおそれのあるものを除き公表する。

(4) 質問への回答日

平成16年10月7日(木)

ただし、競争参加資格確認申請に関連する質問への回答等、本学が必要と判断した場合は、平成16年10月7日より前に一部を回答する場合があるので、文部科学省及び本学ホームページに注意すること。

(5) 質問への回答場所

文部科学省及び本学ホームページ

【第2回目】

(1) 提出期間

平成16年10月25日(月)～平成16年10月26日(火)

(2) 宛先/方法

質問の宛先、提出方法及び様式等については「様式集」<様式2>「入札説明書等に関する質問書提出届」<様式3>「入札説明書等に関する質問書」を参照すること。なお、使用するソフトウェアはMicrosoft Wordとし、入札説明書、入札金額等の算出方法及びサービス購入費の支払方法等、様式集、要求水準書、要求水準書別表・資料、落札者決定基準、事業契約書(案)・基本協定書(案)ごとにファイル名をつけ、電子メールにて提出すること。

電子メールのアドレスは [pfi-komipura@adm.u-tokyo.ac.jp] である。

(3) 回答の公表

質問に対する回答は、質問者の特殊な技術、ノウハウ等に係り、質問者の権利、競争上の地位その他正当な利益を害するおそれのあるものを除き公表する。

(4) 質問への回答日

平成16年11月16日(火)

(5) 質問への回答場所

文部科学省及び本学ホームページ

13 入札書及び入札提案書類の提出期間・場所及び方法等

(1) 提出期間及び場所

1) 提出期間

平成16年12月21日(火)午前10時00分～平成16年12月22日(水)午後2時00分まで(ただし、郵送する場合は平成16年12月21日(火)午後5時00分までに必着のこと)

2) 提出場所

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学施設部施設企画課契約係
電話：03-5841-2209

※ 持参又は郵送すること。電送による入札は認めない。なお、郵送する場合は、必ず「配達記録郵便」とすること。

(2) 開札日時及び場所

1) 開札日時

平成16年12月22日(水)午後3時00分

2) 開札場所

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学本部棟大会議室(12階)

(3) 落札者決定に当たっては、入札書に記載された金額(以下「入札金額」という。)

に、入札金額から金利支払額(別紙「入札金額等の算出方法及びサービス購入費の支払方法等」の「2サービス購入費の支払方法等」「(1)サービス購入費の構成」を参照すること。)を控除した金額の100分の5に相当する額を加算した金額(当該金額に1円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てた金額)をもって落札金額とするので、入札参加者は、消費税及び地方消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約希望金額から金利支払額を控除した金額の105分の100に相当する金額に、金利支払額を加算した金額を入札書に記載すること。

(4) 入札執行回数は、原則として2回とする。なお、2回目の入札の執行は、本学の契約担当者が指定する日時に行う。

(5) 入札書は、任意の封筒に入れ封印し提出すること。封筒の表には、必ず、宛名「国立大学法人東京大学」、「入札者名」及び「東京大学(駒場Ⅰ)駒場コミュニケーション・プラザ施設整備等事業に係る入札書在中」の旨を朱書きで記載すること。

(6) 代理人が入札書を提出する場合には、入札書に「様式集」<様式15~16>「委任状」を添付すること。また、グループで参加する場合は、代表企業が入札書を提出すること。

(7) 入札の辞退

入札参加資格の確認通知を受けた入札参加者が入札を辞退する場合は、「様式集」<様式12>「入札辞退書」を下記宛てに提出すること。なお、郵送する場合は、必ず「配達記録郵便」とすること。

1) 提出期間

平成16年12月21日(火)午前10時00分~平成16年12月22日(水)午後2時00分まで(ただし、郵送する場合は平成16年12月21日(火)午後5時00分までに必着のこと)

2) 提出場所

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学施設部施設企画課契約係
電話:03-5841-2209

(8) 入札提案書類の取扱い

1) 著作権

本事業に関する入札提案書類の著作権は入札参加者に帰属する。また、入札参加者から提出された資料は、民間事業者の選定に関わる公表以外に入札参加者

に無断で使用しない。

なお、入札提案書類は入札者に返却しない。

2) 特許権等

提案内容に含まれる特許権、実用新案権、意匠権、商標権その他日本国の法令に基づいて保護される第三者の権利の対象となっている事業手法、工事材料、施工方法、維持管理方法等を使用した結果生じた責任は、原則として入札参加者が負う。

3) 入札提案書類の変更等の禁止

入札提案書類の変更、差し替え若しくは再提出は認めない。

(9) 入札提案書類に関するヒアリング

本学が必要と判断した場合は、入札提案書類に関するヒアリングを以下の要領で行う。

1) 開催日時

平成17年1月中旬

2) 開催場所

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学本郷地区キャンパス構内（会場は未定）

3) その他

入札参加者別のヒアリング時間等、詳細事項は追って通知する。なお、出席者は、提案内容を説明できる者とする。

14 入札保証金及び契約保証金

(1) 入札保証金は、免除する。

(2) 契約保証金は、免除する。

ただし、選定事業者は建設工事の履行を確保するため、事業契約締結の日から施設の工事完成の日までを期間として、建設工事に相当する金額（設計費及び工事監理費を含む。）の100分の10以上について、本学又は、選定事業者を被保険者とする履行保証保険契約を締結し、事業契約締結後、速やかに当該履行保証保険契約に係る保証証券を本学の契約担当者に提出すること。なお、選定事業者を被保険者とする履行保証保険契約が建設企業によって締結される場合は、選定事業者の負担により、その保険金請求権に、事業契約に定める違約金支払責務を被担保債務とする質権を本学のために設定するものとする。

15 開札

開札は、13に掲げる日時及び場所において入札者又はその代理人を立ち合わせて行う。ただし、入札者又はその代理人が立ち会わない場合においては、入札事務に関係のない職員を立ち合わせて行う。

なお、入札金額が予定金額の制限の範囲内の入札金額を提案した者を発表すること

とし、発表された入札参加者は、その後の落札者選定の対象となる。この際、予定金額及び入札金額の公表は行わない。

16 入札の無効

以下のいずれかに該当する入札は無効とし、無効の入札を行った者を落札者とした場合には落札決定を取り消すものとする。

なお、本学により競争参加資格のあることを確認された者であっても、開札の時に於いて指名停止措置要領に基づく指名停止を受けている者等、開札の時に於いて「8 競争参加資格等」に掲げる資格のない者は競争参加資格のない者に該当する。

- (1) 本公告に示した競争参加資格のない者のした入札
- (2) 委任状を持参しない代理人のした入札
- (3) 「競争参加資格確認申請書等」に記載された入札参加グループの代表者以外のした入札
- (4) 「競争参加資格確認申請書等」その他の一切の提出した書類に虚偽の記載をした者の入札
- (5) 記名押印の欠いた入札
- (6) 金額を訂正した入札
- (7) 誤字、脱字等により意思表示が不明確である入札
- (8) 明らかに連合によると認められる入札
- (9) 同一事項の入札について他の代理人を兼ね、又は2人以上の代理をした者の入札

17 落札者の決定方法等

本件入札は、金額と金額以外の要素を総合的に評価して、最も優れた提案を行った者を落札者として決定する総合評価方式により行う。

入札結果は、落札者決定後、速やかに入札参加者に文書にて通知する。電話等による問い合わせには応じない。また、入札結果は、審査結果とあわせて文部科学省及び本学ホームページへの掲載その他適宜の方法により公表する。

なお、P F I 法第8条に規定する客観的評価については、落札者と基本協定書を締結後に公表する。

(1) 第二次審査（提案内容審査）

審査に関しては、「東京大学 P F I 事業推進委員会」における学識経験者等及び本学教職員で構成する「東京大学（駒場 I）駒場コミュニケーション・プラザ施設整備等事業に係る審査会」（以下「審査会」という。）が行う。

審査会は、事業者の決定基準に関する審議並びに提出された入札提案書類の審査及び優秀提案の選定を行う。審査会は下記の11名の委員で構成される。なお、審査会は非公開とする。

審査会の委員は以下のとおりである。

委員長	林 良博	東京大学副学長
委員 (五十音順)	小幡 純子	上智大学教授
	金井 利之	東京大学法学政治学研究科助教授
	金本 良嗣	東京大学経済学研究科教授
	長澤 泰	東京大学工学系研究科教授
	中村 耕三	東京大学医学系研究科教授
	西村 厚	日本PFI協会理事
	兵頭 俊夫	東京大学総合文化研究科教授
	光多 長温	鳥取大学教授
	森 晃憲	東京大学財務部長
	山田 泰二	東京大学施設部長

(2) 審査の方法

落札者決定基準に従って、審査会にて入札提案書類の審査を行う。入札金額及びその他の条件を総合的に評価し、本学にとって最も有利な提案を行ったものを選定する。

(3) 評価項目等

評価項目は以下のとおりであるが、具体的な内容は落札者決定基準による。

1) 基礎項目審査

以下の計画について、入札参加者の提案内容が、要求水準の基礎項目を全て充足していることを確認する。

- ア 事業計画に関する事項
- イ 施設整備業務計画に関する事項
- ウ 維持管理業務計画に関する事項
- エ 学校事務業務及び教育研究の補助業務計画に関する事項
- オ 購買業務、書籍業務及び食堂運営業務計画に関する事項

2) 加点項目審査

加点項目審査においては、下記項目について、審査会において審査し得点化する。評価に基づく各項目の得点の合計と入札金額により最も優秀な提案を選定する。

- ア 施設計画・施工計画等に関する事項
- イ 運営計画・維持管理計画等に関する事項
- ウ 事業計画等に関する事項

(4) 審査会事務局

審査会の事務局は、東京大学施設部施設企画課とする。

18 手続きにおける交渉の有無

手続きにおける交渉は無とする。

19 基本協定書の締結

落札者は、落札決定後10日以内を目途に、本学を相手方として、基本協定書（案）に基づき、基本協定を締結しなければならない。

20 特別目的会社の設立

落札者は、本事業を実施するため、商法（明治32年3月9日法律第48号）に定める株式会社として特別目的会社（以下「選定事業者」という。）を事業契約締結の時点までに設立するものとする。

なお、入札参加企業又は入札参加グループの構成員は、当該会社に対して出資するものとする。その出資比率の合計は、全体の50%を超えるものとする。

全ての出資者は、事業契約が終了するまで特別目的会社の株式を保有するものとし、本学の事前の書面による承諾がある場合を除き、譲渡、担保権等の設定その他の一切の処分を行ってはならない。

21 事業契約書の締結

(1) 選定事業者は、落札者決定後2か月以内を目途に、本学を相手方として、事業契約書（案）により、事業契約を締結しなければならない。事業契約書において、選定事業者が遂行すべき設計業務、建設業務、工事監理業務、維持管理業務、運営業務に関する業務内容、金額、支払方法等を定める。

(2) 契約金額は、入札金額に、入札金額から金利支払額を控除した金額の100分の5に相当する額を加算した金額（当該金額に1円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てた金額。）とする。

(3) 契約の締結に当たっては、軽微な事項を除き、落札者の入札金額及び入札説明書等に示した契約内容について、変更できないことに留意すること。

(4) 選定事業者が事業契約を締結しない場合、本学は違約金として落札金額の100分の5に相当する金額を請求することがある。

(5) 事業契約書締結に係る選定事業者の弁護士費用、印紙代等は、選定事業者の負担とする。

22 支払条件等

本学の選定事業者に対する支払いは、選定事業者が実施する本施設の設計、建設及び工事監理に係る対価（以下「施設整備費相当」という。）と維持管理業務、学校事務業務及び教育研究の補助業務に係る対価（以下「維持管理運営費相当」という。）から成る。本学は、本施設の施設整備費相当と維持管理運営費相当を施設供用開始の日から事業期間中に、選定事業者に対し、PFI法第10条第1項に規定する本学と選定事業者との間で締結する事業契約書に定めるところにより支払う。また、一定の条件に基づいて、サービス購入費の支払額の改定を行う。

詳細は、別紙「入札金額等の算出方法及びサービス購入費の支払方法等」を参照すること。

23 保険

(1) 建設工事期間中にかかる保険

選定事業者は以下の要件を満たす建設工事保険及び第三者損害賠償保険に加入し、その保険料を負担するものとする。

1) 共通

ア 契約者

選定事業者又は受託者（建設に当たる者）

イ 建設場所

東京都目黒区駒場3丁目8番1号（東京大学駒場Iキャンパス構内）

2) 建設工事保険

ア 被保険者

選定事業者又は受託者

イ 保険の対象

本件施設の建設工事費

ウ 保険期間

建設工事着工日を始期とし、予定日を終期とする。

エ 保険金額（補償額）

請負代金額

オ 補償する損害

水災危険を含む不測かつ突発的な事故による損害

3) 第三者賠償責任保険

ア 被保険者

選定事業者又は受託者

イ 保険期間

建設工事着工日を始期とし、工事完成の予定日を終期とする。

ウ てん補限度額（補償額）

対人：1億円／1名・10億円／1事故、対物：1億円／1事故 以上

エ 補償する損害

工事に起因する第三者の身体損害及び財物障害が発生したことによる法律上の損害賠償責任を負担することによって被る損害

オ 免責金額

50,000円以下

4) その他

ア 選定事業者又は受託者は、上記の保険契約を締結したときは、その保険証券を遅滞なく本学に提示するものとする。

イ 選定事業者又は受託者は本学の承認なく保険契約及び保険金額の変更又は解約をすることができないものとする。

ウ 選定事業者又は受託者は業務遂行上における人身、対物及び車両の事故については、その損害に対する賠償責任を負い、これに伴う一切の費用を負担するものとする。

(2) 維持管理・運営期間中にかかる保険

選定事業者は、維持管理・運営期間中に自らが所有する建物（BOT部分・北館）について普通火災保険に加入すること。なお、保険金額は、再調達価格に相当する額とする。

(3) その他の保険

上記(1)(2)以外の保険を付保することを条件とはしないが、選定事業者が事業の安全に資するために自らが提案した保険は必ず付保すること。

24 随意契約により締結する予定の有無

本件事業以外の業務で、本件事業に直接関連する業務に関する契約を本件事業の契約の相手方と随意契約により締結する予定は無とする。

25 苦情申立て

本手続きにおける競争参加資格の確認その他の手続きに関し、「政府調達に関する苦情の処理手続」（平成7年12月14日付け政府調達苦情処理推進本部決定）により、政府調達苦情検討委員会（連絡先：内閣府政府調達苦情処理対策室、電話03-3581-0262（直通））に対して苦情を申立てることができる。

26 関連情報を入手するための照会窓口

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学施設部施設企画課契約係
電話：03-5841-2209

27 その他

- (1) 手続きにおいて使用する言語及び通貨は、日本語及び日本国通貨とする。
- (2) 入札参加者は、本入札説明書等を熟読し、遵守すること。
- (3) 競争参加資格確認申請書等に虚偽の記載をした場合においては、指名停止措置要領に基づく指名停止を行うことがある。
- (4) 選定事業者は、競争参加資格確認申請書等に記載した配置予定の技術者を当該事業の現場に配置すること。

Ⅱ. 事業実施に関する事項

1 選定事業者の権利義務等に関する制限

(1) 選定事業者の事業契約上の地位の譲渡等

本学の事前の承諾がある場合を除き、選定事業者は事業契約上の地位及び権利義務を譲渡、担保提供その他の方法により処分してはならない。

(2) 特別目的会社の株式の譲渡・担保提供等

本事業を遂行するため設立された特別目的会社に出資を行った入札参加者は、本事業が終了するまで特別目的会社の株式を保有するものとし、本学の事前の書面による承諾がある場合を除き、譲渡、担保権等の設定その他一切の処分を行ってはならない。

(3) 債権の譲渡

選定事業者が、本学に対して有する本施設の設計、建設及び工事監理並びに維持管理業務及び運營業務の提供に係る債権は、本学の承諾がなければ譲渡することができない。

(4) 債権への質権設定及び債権の担保提供

選定事業者が、本学に対して有する本施設の設計、建設及び工事監理並びに維持管理業務及び運營業務の提供に係る債権に対する質権の設定及びこれの担保提供は、本学の承諾がなければ行うことができない。

2 本学と選定事業者の責任分担

(1) 基本的考え方

本事業における責任分担の考え方は、適正にリスクを分担することにより、より低廉で質の高いサービスの提供を目指すものであり、本施設の設計、建設及び工事監理並びに維持管理業務及び運營業務の責任は、原則として選定事業者が負うものとする。ただし、本学が責任を負うべき合理的な理由がある事項については、本学が責任を負うこととする。

(2) 予想されるリスクと責任分担

本学と選定事業者の責任分担は、事業契約書（案）によることとし、入札参加者は負担すべきリスクを想定した上で提案を行うものとする。リスク分担の程度や具体的内容については、事業契約書（案）に示すが、事業契約書（案）に示されていない場合は、双方の協議により定めるものとする。

3 法制上及び税制上の措置並びに財政上及び金融上の支援に関する事項

(1) 法制上及び税制上の措置に関する事項

本事業に関する法制上及び税制上の措置等として、BOT部分の北館の教育研究施設（校舎）部分については、不動産取得税、固定資産税及び都市計画税の特例措

置を受けられることを予定している。(詳しくは、「地方税法」(昭和25年7月31日法律第226号)附則第11条第33項、附則第15条第55項、並びに「地方税法施行令」(昭和25年7月31日政令第245号)「地方税法施行規則」(昭和29年5月13日総理府令第23号)の該当部分を参照のこと。)

(2) 財政上及び金融上の措置に関する事項

現時点では、財政上の措置は想定していない。金融上の支援としては、II 5を参照のこと。ただし、選定事業者が事業を実施するに当たり、財政上及び金融上の支援を受けることができる可能性がある場合には、本学はこれらの支援を選定事業者が受けることができるよう可能な範囲で必要な協力を行う。

4 事業実施に関する事項

(1) 誠実な業務遂行義務

選定事業者は、入札提案書類及び事業契約書に定めるところにより、誠実に業務を遂行すること。

(2) 事業期間中の選定事業者と本学の関わり

- 1) 本事業は、選定事業者の責任において実施される。また、本学は事業契約書に定められた方法により、事業実施状況の確認を行う。
- 2) 本学は原則として選定事業者に対して連絡等を行うが、必要に応じて本学と建設企業等との間で直接連絡調整等を行う場合がある。この場合において、本学と建設企業等との間で直接連絡調整を行った事項については選定事業者に報告する。
- 3) 事業の継続性を出来るだけ確保する目的で、本学は、選定事業者に対し資金提供を行う金融機関等と協議を行い、直接協定を結ぶことがある。
- 4) 事業計画又は契約の解釈について疑義が生じた場合には、本学と選定事業者は誠意をもって協議する。

(3) 業務内容

1) 業務内容

設計、建設及び工事監理並びに維持管理業務及び運営業務については、事業契約書(案)及び要求水準書による。

2) 業務の委託

選定事業者は1)に示した業務を、あらかじめ本学の承諾を得た上で、第3者に委託することができる。

(4) 本学によるモニタリング

本学は、選定事業者が定められた業務を確実に実施し、事業契約書(案)に規定した要求水準を達成しているか否かを確認するとともに、選定事業者の財務状況を把握するため、以下の監視を行う。なお、維持管理業務、学校事務業務及び教育研究の補助業務について、要求水準を達成していないと認められる場合、本学は、当該業務に係る維持管理運営費相当の減額等を行う。詳細は、事業契約書(案)を参照のこと。

1) 本事業の実施状況の確認

本学は、本事業の各段階において、事業契約書の定めるところにより、定期的に確認を行う。また、定期的に行う確認のほか、本学が必要と認める場合には、随時確認を行う。

なお、確認に要する費用は、事業者側に発生する費用を除き本学の負担とする。

ア 基本設計・実施設計時

事業者は、定期的に本学に報告を行うとともに、基本設計及び実施設計完了時に要求水準に適合していることが確認できる設計図書を本学に提出し、内容の確認を受ける。

イ 建築確認申請時

事業者は、建築基準法に基づく建築確認の書類作成を行い、建築確認の申請を行うとともに、本学に事前説明及び事後報告を行う。

ウ 工事施工時

事業者は、建築基準法に規定される工事監理者を設置し、工事監理を行い、事業者を通じ、工事監理者に工事監理の状況を本学に毎月報告させる。また、事業者は、本学が要請したときは、工事施工の事前説明及び事後報告、工事現場での施工状況の説明を行わなければならない。ただし、本学が工事施工の事前説明及び事後報告、工事現場での施工状況の説明を受けたことによって、施工に起因する瑕疵の責任は本学に移転されないものとする。

エ 工事完成時

事業者は、施工記録を用意して、現場で本学の確認を受ける。ただし、本学が施工記録の確認を行ったことによって、施工に起因する瑕疵の責任は本学に移転されないものとする。

オ 施設供用開始後

本学は、施設供用開始後、定期的に維持管理業務及び運営業務のモニタリングを行う。

2) 支払の減額等

モニタリングを行った結果、維持管理業務及び運営業務について事業契約書に規定した要求水準が満たされていないことが判明した場合には、維持管理運営費相当の減額等を行うことがある。

3) 財務書類の提出

選定事業者は、毎事業年度、当該事業年度の財務書類（商法第281条第1項に規定する計算書類）を作成し、自己の費用をもって公認会計士又は監査法人による監査を受けた上で、監査報告書とともに毎事業年度経過後3か月以内に本学に提出する。また、本学は、請求があった場合には、当該財務書類を公開できるものとする。

(5) 土地の使用等

- 1) 本事業の本施設に係る敷地は、国立大学法人東京大学の所有地である。
- 2) 本施設に係る敷地については、東京大学固定資産管理規程（平成16年4月1日）第18条の定めに基づき、建設及び維持管理・運営業務並びにBOT部分の

建築物（北館）の所有に必要な範囲を選定事業者は無償で貸与する。借地形態は、事業期間にわたる使用貸借権を認めることとしており、地上権の設定は予定していない。

5 財政上及び金融上の支援に関する事項

- 1) 本学は、本事業における施設整備等にかかる費用の全額に対して、国からの補助を受けて実施するものである。また、維持管理、学校事務業務及び教育研究の補助業務等にかかる費用については、国からの運営費交付金の支給を受けることを予定している。
- 2) 本選定事業は、日本政策投資銀行の「民間資金活用型社会資本整備」に対する融資（無利子融資、低利子融資）の対象事業であり、入札参加者は自らの責任において当該融資を利用することを前提として提案することができる。当該融資制度の詳細、条件等については、入札参加者が直接同行に問い合わせを行うこととされたい。
ただし、当該融資を提案に織り込む場合には、民間金融機関と同様の金利を前提とすることとし、本学は、政策投資銀行の同融資制度の主旨がPFI事業の安定性向上等にあることに鑑み、同行からの調達が可能となった際においてもサービス購入料の見直しは行わない。なお、無利子融資制度は、平成18年3月31日までの時限措置であることに留意されたい。

6 その他

(1) 事業の終了

本学は、本施設が選定事業者の責めに帰すことができない災害等により使用が困難と判断した場合、あるいはその他の事由により本施設を維持・継続できないと判断した場合は、本施設の維持管理業務及び運営業務の提供を終了させることができる（事業契約書（案）参照）。

(2) 情報の提供

本入札説明書に定めることのほか、入札の実施に当たって必要な事項が生じた場合には、文部科学省及び本学のホームページに掲載する。

(3) 事業契約に違反した場合等の取扱い

事業契約締結後、契約に違反し、又は落札者となりながら正当な理由なくして契約を拒み、ないしは入札等本学の業務に関し不正又は不誠実な行為をし、契約の相手方として不適当であると認められる者については、当該事実が判明した時から最長2年間、文部科学省等が実施する入札への参加が認められなくなる場合があることに留意すること。

(4) 特定事業の選定の取消し

入札者がいない場合又は入札者全員の入札金額が本学が設定する予定金額を越える場合、本学は特定事業の選定を取り消すこととし、その旨を速やかに公表する。

(5) 事業に必要と想定される根拠法令等

本事業にあたっては、PFI法及び「民間資金等の活用による公共施設等の整備等に関する事業の実施に関する基本方針」（平成12年3月13日総理府告示第11号。以下「基本方針」という。）のほか、下記に掲げる関連の各種法令に拠ることとする。

- 1) 建築基準法
- 2) 都市計画法
- 3) 消防法
- 4) 高齢者・身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の促進に関する法律
- 5) 建築物における衛生的環境の確保に関する法律
- 6) エネルギーの使用の合理化に関する法律
- 7) 廃棄物の処理および清掃に関する法律
- 8) 大気汚染防止法
- 9) 電気設備技術基準
- 10) 内線規程
- 11) 高圧受電設備規程
- 12) 国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律
- 13) その他関係法令等

Ⅲ. 提出書類一覧

1 現地説明会に関する提出書類（1部）

- (1) 現地説明会参加申込書 <様式1> A4版1枚

2 質問に関する提出書類（各1部）

- (1) 入札説明書等に関する質問書提出届（第1回目・第2回目） . . . <様式2> A4版各1枚
(2) 入札説明書等に関する質問書（第1回目・第2回目） <様式3> A4版各一枚

3 競争参加資格確認申請に関する提出書類（正本各1部）

- (1) 競争参加資格確認申請書 <様式4> A4版1枚
(2) 競争参加資格確認申請書添付書類の提出届確認表 <様式5> A4版1枚
(3) グループ構成員及び協力会社一覧表 <様式6> A4版一枚
(4) 委任状 <様式7> A4版一枚
(5) 設計に当たる者の資格等要件に関する書類 <様式8> A4版一枚
(6) 建設に当たる者の資格等要件に関する書類 <様式9> A4版一枚
(7) 工事監理に当たる者の資格等要件に関する書類 <様式10> A4版一枚
(8) 維持管理に当たる者の資格等要件に関する書類 <様式11> A4版一枚

4 入札辞退時の提出書類（正本1部）

- (1) 入札辞退届 <様式12> A4版一枚

5 入札時の提出書類（正本各1部）

- (1) 入札提案書類提出届 <様式13> A4版1枚
(2) 入札提案書類提出届確認表 <様式14> A4版2枚
(3) 委任状（代理人） <様式15> A4版1枚
(4) 委任状（復代理人） <様式16> A4版1枚
(5) 入札書 <様式17> A4版1枚
(6) 要求水準書に関する確認書 <様式18> A4版1枚
(7) グループ構成員及び協力会社変更届 <様式19> A4版一枚

6 施設計画・施工計画等に関する提案書(正本：製本1部、副本：バインダー綴じ25部)

- (1) 施設計画・施工計画等提案書表紙 <様式20> A4版1枚
(2) 施設計画の概要 <様式21> A4版1枚
(3) 建築計画の概要 <様式22> A4版2枚
(4) 構造計画の概要 <様式23> A4版2枚
(5) 電気設備計画の概要 <様式24> A4版2枚
(6) 機械設備計画の概要 <様式25> A4版2枚
(7) ①周辺環境への配慮 <様式26> A4版2+ α 枚
(8) ②機能性・室内環境 <様式27> A4版2+ α 枚
(9) ③経済性 <様式28> A4版3+ α 枚
(10) ④施工計画 <様式29> A4版1+ α 枚

- 7 施設計画等に関する提案書(図面集)(正本:製本1部、副本:バインダー綴じ25部)
- (1) 図面集表紙 <様式30> A3版1枚
 - (2) 外観透視図(全体アイレベル1枚、中庭アイレベル1枚、全体鳥瞰1枚). <様式31> A3版3枚
 - (3) 内観透視図(北館1枚、南館1枚、和館1枚) <様式32> A3版3枚
 - (4) 平面図(各階)(1/500) <様式33> A3版一枚
 - (5) 立面図(4面以上)(1/500) <様式34> A3版一枚
 - (6) 断面図(3面以上)(1/500) <様式35> A3版一枚
 - (7) 面積表および仕上表等 <様式36> A3版一枚
- 8 運営計画・維持管理計画等に関する提案書(正本:製本1部、副本:バインダー綴じ25部)
- (1) 運営計画・維持管理計画等提案書表紙 <様式37> A4版1枚
 - (2) ①学校事務・教育研究の補助 <様式38> A4版3+ α 枚
 - (3) ②購買 <様式39> A4版3+ α 枚
 - (4) ③書籍 <様式40> A4版3+ α 枚
 - (5) ④食堂運営 <様式41> A4版4+ α 枚
 - (6) ⑤維持管理計画 <様式42> A4版2+ α 枚
- 9 事業計画等に関する提案書(正本:製本1部、副本:バインダー綴じ25部)
- (1) 事業計画等提案書表紙 <様式43> A4版1枚
 - (2) 事業に関する全体方針 <様式44> A4版2枚
 - (3) ①事業主体の経営能力・遂行能力 <様式45> A4版2+ α 枚
 - (4) 事業スケジュール <様式46> A4版1枚
 - (5) 事業リスクへの対応 <様式47> A4版1枚
 - (6) ④総合管理計画 <様式48> A4版2+ α 枚
- 10 事業計画等に関する提案書(資金調達計画等)(正本:製本1部、副本:バインダー綴じ25部)
- (1) 資金調達計画等提案書表紙 <様式49> A4版1枚
 - (2) ③資金調達計画等 <様式50> A4版一枚/ただし⑤はA4版2+ α 枚
 - (3) ②長期事業収支計画表(その1・その2) <様式51> A3版2枚
 - (4) 入札金額内訳書(施設整備費相当の内訳書) <様式52> A4版4枚
 - (5) 入札金額内訳書(施設整備費相当のうち建設工事費の内訳書). <様式53> A4版4枚
 - (6) 入札金額内訳書(維持管理運営費相当の内訳書) <様式54> A4版4枚
 - (7) 入札金額内訳書(維持管理運営費相当の年度計画の内訳書) . <様式55> A3版4枚
 - (8) 資金調達スキーム(枠組) <様式56> A4版1枚
 - (9) 同意書または関心表明書 <様式57> A4版一枚
- 11 その他事項に関する提案書(正本:製本1部、副本:バインダー綴じ25部)
- (1) その他事項提案書表紙 <様式58> A4版1枚
 - (2) 特記事項 <様式59> A4版2枚